ニッキン ONLINE

# TKC東北会、金融機関と合同セミナー　書面添付制度への理解促す

2026年10月6日 18:20




講演する家森教授（10月6日、仙台市）

TKC東北会（仙台市、居川孝男会長）は10月6日、「事業性評価を軸にした金融機関と税理士の協働」をテーマに、仙台市内のホテルでセミナーを開いた。東北地区17金融機関から45人、TKC会員の税理士135人（オンライン含む）が参加した。

コロナ禍以降、2025年に引き続き2回目の開催となった。金融機関と税理士の連携強化に加え、税理士が作成する税務申告書などの申告内容の正確性を高める仕組み、「書面添付制度」の周知や活用を促す目的。同制度は「金融機関にとっても融資審査の判断材料として役立つため、双方で浸透させたい」（TKC東北会の植松知幸書面添付推進委員長）考えだ。

基調講演では神戸大学の家森信善教授が登壇。政府の「日本成長戦略」では中小企業を支援する際、正確な会計情報を企業と金融機関で共有するよう求めている点に触れ、「質の高い事業者支援には税理士など専門家との連携が欠かせない」と指摘。「企業に有益なアドバイスやファイアンスを行い、企業価値の向上を一緒に実現してほしい」と呼びかけた。

このほか、「情報の非対称性を解消するための書面添付制度」や、「金融機関と税理士の連携」などを演題にしたグループディスカッションも実施。会場には仙台銀行、杜の都信用金庫、宮城第一信用金庫などの行職員が参加し、税理士と意見を交わした。

TKC東北会の菊池祐輝中小企業支援委員長は「書面添付制度を含め、金融機関との連携が今後加速していければ」と期待を寄せた。

日本金融通信社が記事利用を許諾しています
ニッキン ONLINE　2026 年 10 月 6 日